

センターと特別支援学校の連携状況

各種実績データ及び特別支援学校へのヒアリングより、千葉県千葉リハビリテーションセンターと袖ヶ浦特別支援学校との連携状況を調査しました。

(1) 在籍状況

袖ヶ浦特別支援学校における生徒の在籍状況の推移は下記の通りとなっています。千葉県千葉リハビリテーション入所児で袖ヶ浦特別支援学校に通学している児童生徒数は年々減少しています。一方で、医療的ケア実施者数、人工呼吸器使用者数は年々増加傾向となっています。

	全児童 生徒数 (100%)	通学児童 生徒数 (%)	院内学級 児童生徒数 (こども病院) (%)	千葉リハ 児童生徒数 (%)	医療的ケア 実施者数 【再掲】 (%) ※	人工呼吸 器使用 【再掲】 (%) ※	重複 障害児数 【再掲】 (%) ※
平成 26年	209	131 (62.7)	30 (14.4)	48 (22.9)	40 (22.3)	9 (5.0)	167 (79.9)
平成 27年	203	130 (64.0)	26 (12.8)	47 (23.2)	46 (25.9)	13 (7.3)	162 (79.8)
平成 28年	181	110 (60.8)	28 (15.5)	43 (23.7)	45 (29.4)	17 (11.1)	144 (79.6)
平成 29年	179	109 (60.9)	24 (13.4)	46 (25.7)	46 (29.7)	17 (11.0)	146 (81.6)
平成 30年	177	110 (62.1)	31 (17.6)	36 (20.3)	49 (33.6)	22 (15.1)	134 (75.7)

※医療的ケア実施者数、人工呼吸器使用、重複障害児数は、通学児童生徒数と千葉リハ児童生徒数に対しての人数及び割合。

また、通学生の市町村別居住地の状況を見ると、緑区が最も多く、全体の43%を占めています。次いで、市原市が全体の32%を占めています。

(単位：人)

市町村	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	計	%	
千葉市	緑区	52	50	48	53	53	256	43%
	稲毛区	1	1	1	1	1	5	1%
	中央区	1	7	2	2	3	15	3%
	美浜区	1	1	1	0	0	3	1%
千葉市以外	浦安市	1	1	1	1	1	5	1%
	印西市	0	0	0	0	1	1	0%
	八街市	0	2	1	1	2	6	1%
	富里市	2	2	0	0	0	4	1%
	山武市	2	3	1	0	0	6	1%
	茂原市	1	1	0	0	0	2	0%
	東金市	9	8	7	6	3	33	6%
	大網白里市	7	5	6	5	4	27	5%
	白子町	0	0	1	2	1	4	1%
	九十九里市	0	1	1	0	0	2	0%
	横芝光町	1	1	0	0	0	2	0%
	一宮町	1	0	0	0	0	1	0%
	大多喜町	0		0	0	1	1	0%
	鴨川市	1	0	1	1	1	4	1%
	市原市	44	42	34	32	34	186	32%
	木更津市	1	1	1	1	0	4	1%
	君津市	3	2	1	1	1	8	1%
袖ヶ浦市	3	3	3	2	3	14	2%	
潮来市	0	0	0	1	1	2	0%	
計	131	131	110	109	110	589	100%	

(2) 児童生徒の視点における連携内容

袖ヶ浦特別支援学校に通う児童生徒や家族の視点における千葉県千葉リハビリテーションセンターと袖ヶ浦特別支援学校との主な連携内容は下記の通りとなっています。

No.	項目	内容
1	日々の通院	通学前や授業の合間、下校時に診察、リハビリテーション等を受けています。袖ヶ浦特別支援学校に通う全生徒が何かしらの通院を受けています(「a. 通院に関する状況」参照)。
2	救急搬送	袖ヶ浦特別支援学校にて児童の急性増悪等による緊急事態が発生した場合には、ストレッチャーにて渡り廊下を通過して千葉県千葉リハビリテーションセンターに直接搬送しています(「b. 緊急搬送に関する状況」参照)。

3	短期入所	袖ヶ浦特別支援学校在籍児童において、保護者のレスパイトとして千葉県千葉リハビリテーションセンターの短期入所を利用しています。
4	えぶりきっず	放課後等デイサービスとして、袖ヶ浦特別支援学校通学の医療的ケア実施児童生徒が利用しています。
5	検診	内科検診、整形外科検診を千葉県千葉リハビリテーションセンター医師にて行っています。

1) 通院に関する状況

袖ヶ浦特別支援学校に通う児童生徒の千葉県千葉リハビリテーションセンターへの通院状況(通院頻度、主な診療科、通院内容)は下記の通りとなっています。小児神経科の診察と各種訓練を中心として、整形外科、眼科、歯科の診察も受けています。

頻度	診療科					訓練			その他	のべ 人数
	小児神経科	整形外科	眼科	歯科		PT	OT	ST		
	診察、投薬 (含ボトックス)	診察	診察	治療 経過観察	摂食訓練	理学療法	作業療法	言語療法		
毎週	4		1			1	1			7
2週										
1月	16			1		8	7	4	1	37
2月	6		1			7	2		1	17
3月	18	4	2	5	3	9	5			46
4月	7	1	4	12	1				1	26
6月	18	18	13			1	1	1		52
1年	21	11	1			1	1		1	36
不定期	9	11	3	6	4	33	20	3	1	90
のべ 人数	99	45	25	24	8	60	37	8	5	311

※出典：袖ヶ浦特別支援学校「保健調査票」

2) 緊急搬送に関する状況

袖ヶ浦特別支援学校に通う児童生徒における緊急搬送の状況は下記の通りです。年間6件程度の緊急搬送があり、その半数以上を千葉県千葉リハビリテーションセンターに直接搬送しています。この緊急搬送は愛育園から通う児童生徒に限らず行っています。

	緊急受診件数	千葉リハへ救急搬送	(うち千葉リハ児童生徒)
平成 28 年度	6 件	3 件	2 件
平成 29 年度	6 件	5 件	0 件
平成 30 年度※	9 件	8 件	2 件

※平成 30 年度は未確定数(12 月 14 日時点)

(3) 職員の視点における連携内容

袖ヶ浦特別支援学校で働く職員の視点における千葉県千葉リハビリテーションと袖ヶ浦特別支援学校との主な連携内容は下記の通りとなっています。

No.	項目	内容
1	医療的ケア指導医による 教員の医療的ケアの見極め、研修	袖ヶ浦特別支援学校在籍の医療的ケア実施児童生徒の指導医を千葉県千葉リハビリテーションセンターの医師に依頼しており、袖ヶ浦特別支援学校教員による特定医行為の習熟度確認を行っています。
		指導医や千葉県千葉リハビリテーションセンター職員より、医療的ケアに関する各種講義や実技演習を行っています。
2	在籍児童生徒に関する 情報共有	在籍児童生徒に関する定期的なカンファレンスを開催し、在籍児童生徒が健康で安全な生活を送るための情報共有を行っています。
3	学校行事の連携	医療的ケア実施児童生徒の校外学習や宿泊学習、修学旅行時に千葉県千葉リハビリテーションセンターの医師または看護師が同行しています。

(4) 千葉県千葉リハビリテーションセンターが移転した際に想定される主な課題

仮に、新センター整備にあたり、千葉県千葉リハビリテーションセンターが移転した場合、袖ヶ浦特別支援学校との連携において想定される主な課題は下記の通りです。

1) 通院に関する課題

日々の通院については、主として保護者が、通学前や授業の合間、下校時と、児童生徒の状況に合わせて付き添いをしています。よって、移転した場合は、保護者の業務負担が増えるとともに、児童生徒の欠席や遅刻、早退が増加することが想定されます。

2) 救急搬送に関する課題

千葉県千葉リハビリテーションセンターと渡り廊下で連結しているため、児童生徒の緊急時には直接搬送による対応が可能となっています。移転した場合は救急車による搬送となり、救急車の到着から搬送までの時間を要することとなることが想定されます。

3) 職員負荷に関する課題

医療的ケア指導医による教員の医療的ケアの見極め・研修で年間10回(延べ90件前後の見極めを実施)、検診や研修会等で年間30回以上、定例のカンファレンス等、千葉県千葉リハビリテーションセンターと袖ヶ浦特別支援学校の職員間の来訪による連携があり、移転した場合は、児童生徒の健康と安全の水準を維持するためには職員の移動量増に伴う業務負荷増が想定されます。

4) 医療バックアップに関する課題

袖ヶ浦特別支援学校は、障害の重い児童生徒が多く在籍しています。これらの保護者は千葉県千葉リハビリテーションセンターが隣接していることによる安心感から袖ヶ浦特別支援学校を選んでいきます。また、袖ヶ浦特別支援学校職員には、医療的ケア等、高度な専門知識が要求されることに加え、児童生徒の生命にかかわる大きな責任が伴うため、千葉県千葉リハビリテーションセンターによる各種研修や緊急時の搬送等、隣接していることによる安心感が支えとなっています。移転した場合には、これらの安心感を担保する必要があります。